１．個人データ

職名： 准教授　　氏名： 宇野　宏司　　学位： 博士（工学）　e-mail： uno@kobe-kosen.ac.jp

２．教育・研究テーマ

☆都市近郊に残された自然の環境保全と防災の両立を目指して☆

当研究室では，神戸近郊の河川、沿岸域でのフィールドワークを中心に，水辺の環境保全・防災に関する研究を行なっています．現在の主な研究テーマは以下のとおりです．
最新のトピックは当研究室の web サイトをご覧下さい．　→ http://www.kobe-kosen.ac.jp/~uno/

【都市近郊に残された干潟，砂浜の保全に関する研究】

都市近郊の海岸はプレジャーボートを初めとする小型船舶の往来が盛んで,航走波が不規則に押し寄せていますが，これによる海岸地形の変動メカニズムについては明らかにされていないのが現状です．当研究では，航走波による短期的な地形変動特性の解明を目的とした現地調査や数値シミュレーションを実施しています．また，中長期的な視点から，潮汐・波浪・地球温暖化による海水面上昇といった物理インパクトが，地形変動に及ぼす影響についても検討しています．

【都市河川の環境保全に関する研究】

都市部を流れる河川においては，多自然型川づくりが進められ，コンクリート三面張りの「水路」からの脱却が図られつつあります．これらの改修事業は生態系への配慮のもとに進められていますが，特に都市部の中小河川に対しては事業実施後の継続的なモニタリングが十分に行われず,事業効果に対する評価があいまいになる恐れがあります．当研究室では，神戸市内の都市河川を対象に河川環境の改善効果を把握するための継続的なモニタリング調査（水質・底質・水生生物）を実施し，都市河川のあるべき姿について検討しています．

【浮遊ごみの漂着機構解明に関する研究】

沿岸域に漂着する大量の浮遊ごみは，美しい景観を損なうばかりでなく，その生態系を脅かし，人々が安心して海に触れる機会が奪われることにもなります．浮遊ごみ問題の根本的な解決策は，発生源と漂着過程を明らかにすることにあると考えられます．当研究室では，漂着する浮遊ごみについての現地調査及び数値シミュレーションを通じて,淡路島周辺の浮遊ごみの実態把握と漂着機構の解明に関する研究を行っています．

３．その他のデータ

（１）教育・研究技術相談可能分野

・干潟の環境アセスメント（底生生物の生息地適正評価モデルの構築など）
・水工学に関する数値シミュレーション（河川の洪水氾濫解析，河床変動計算）

（２）出前講義・公開講座，講演可能テーマ

・水辺の生き物観察会（干潟，河川）
・水辺の環境に関する出前講義

（３）キーワード

・水工学，河川工学，生態工学，都市環境工学